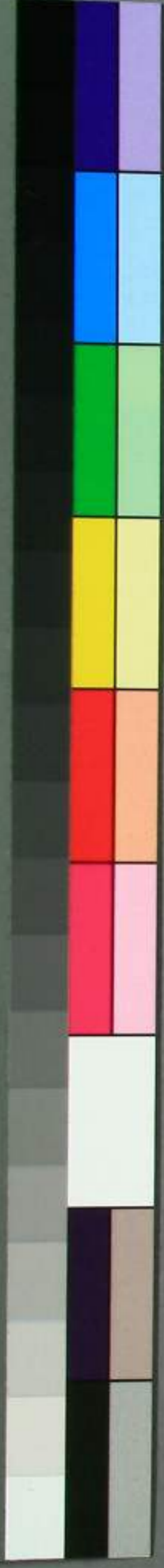


ROBAM Gray Scale LICENSED PRODUCT

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



蘭方  
ホルトス弘方心得書

西垣文庫  
文庫10  
6513



ホルトス譯解

清菜買子見る法方ハ何れも病字ヤマイナシ  
是近種コレマデ暖菜ニルキと成へも其効能そのきうのうたき舊ヨクに依て  
ホルトスで用ひ試人とおもふ所そのころ力ちからあれば能たく  
以もつ根こん体たいの爲ために成なりし病やまいは以もつ菜さい柳りゅうで  
以もつ用もちと申まをすはた人ひと何程なんほども好かう菜さいよりたたきま  
おそこの理ことわりより何なんれも先まづ初はつまの分量ぶんりやうでま

あつた白湯さかを七しち八はち粒りゅう又また小色せうしき一いち服ふくで  
以もつ用もちひて申まをすは中ちゆうにまじり病根やまいこんの深ふかくも  
以もつ効きう弁べんを菜用さいように流ながし菜さいの効きうに依より  
しむるにあり能たく時ときに弘ひろくの豫よにおぬ方かた  
色いろ申まをす粒りゅうに依よりしと以もつ讀よみえし  
以もつ病やまいに依よりし中ちゆうにまじりし病やまいを以もつ察さつす  
以もつ中ちゆうにまじりし病やまいを以もつ察さつす

- 一 沓葉割方沓葉茶沓葉切沓葉  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 二 引沓葉札沓葉清沓葉く沓葉る沓葉方沓葉  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 三 能沓葉書沓葉く沓葉以沓葉手沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 四 功沓葉能沓葉く沓葉病沓葉中沓葉と沓葉大沓葉小沓葉便沓葉と  
下沓葉る沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 五 持沓葉病沓葉人沓葉事沓葉と沓葉兼沓葉用沓葉  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 六 疾沓葉り沓葉変沓葉病沓葉と沓葉多沓葉  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 七 酒沓葉好沓葉人沓葉持沓葉茶沓葉用沓葉中沓葉  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 八 仍沓葉り沓葉茶沓葉并沓葉積沓葉茶沓葉中沓葉拾沓葉る沓葉
- 九 沓沓葉五沓葉次沓葉取沓葉仍沓葉り沓葉共沓葉お沓葉と沓葉り沓葉人沓葉持沓葉  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 十 兼沓葉茶沓葉持沓葉茶沓葉並沓葉と沓葉多沓葉り沓葉  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 十一 か沓葉ん沓葉を沓葉ん沓葉の沓葉ど沓葉と沓葉希沓葉と  
不中拾沓葉を沓葉拾沓葉る沓葉
- 十二 結沓葉ら沓葉ん沓葉日沓葉人沓葉掛沓葉方沓葉と沓葉



ホルトス弘方と秘書



一 世世上上とと賣賣茶茶較較多多有有りり且且有有一一通通のの弘弘方方ににててハ  
 免免角角ありあり且且此此類類茶茶同同拾拾おおとと拾拾るるああららほほとときき  
 了了るる功功能能ももたたららばば逃逃ててぬぬ持持人人多多しし依依ててはは弘弘方方  
 仍仍りり拾拾ららばば奥奥とと妻妻くくおお記記中中にに得得とと沓沓續續とと並並



ごゑとく  
御會場ごゑとくよりそれくたはせんごんばまゆくひろめ河合もひらめ河合もひらめ河合もひらめ河合もひらめ

てひら  
もま廣くまおま申まひまはま併ま看ま板ま御ま店ま因まはま御ま掛ま之ま坐ま

と下く業くくく依くハく格く列くのく御く會く者くもく御く往くたくくくひくてくハく

たいとい如い行い程いのい良い業いさいらいもい諸い人い其い切い能いとい不い知い

折せ南せ張せ紙せ并せ引せ札せ御せ配せりせとせ申せひせ申せもせ尚せ往せ限せてせ

弘いりい方いもい遠いくい且いハい御い業いのい信い仰いもい為いおい目い之い

中ちハち勿ち端ち尚ち時ち御ち人ち氣ちいちまちげちくち等ち困ちのちこち

ととハと却とてと帰と服と不と仕と千と里とのと道ともと一と歩とよりととと

中ちハちくち初ちてち始ちがち大ちるち御ち往ちのち依ち之ちホちルトちスち

看く板くのく依くハく格く列く之く念く入く申く方くのく車く之く初くよりく

折せ外せへせ申せすせもせ知せ渡せ小せ危せ根せ之せ成せ面せニせ格せ好せ能せ

御ご掛ごアご申ごのご当ご又ご引ごれご配ごりご方ごのご依ごハご念ご入ご御ご掛ご之ご

其<sup>その</sup>翌<sup>あつち</sup>日<sup>ひ</sup>より<sup>より</sup>所<sup>ところ</sup>配<sup>くば</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>後<sup>あと</sup>た<sup>た</sup>は<sup>は</sup>看<sup>くわん</sup>板<sup>ばん</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ちゆう</sup>す<sup>す</sup>

配<sup>くば</sup>り<sup>り</sup>當<sup>あた</sup>て<sup>て</sup>自<sup>おの</sup>人<sup>の</sup>氣<sup>き</sup>の<sup>の</sup>よ<sup>よ</sup>る<sup>る</sup>所<sup>ところ</sup>と<sup>と</sup>自<sup>じ</sup>然<sup>ぜん</sup>と<sup>と</sup>引<sup>ひ</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>

元<sup>もと</sup>ち<sup>ち</sup>が<sup>が</sup>め<sup>め</sup>ず<sup>ず</sup>申<sup>まを</sup>ひ<sup>ひ</sup>万<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>居<sup>ゐ</sup>り<sup>り</sup>指<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>所<sup>ところ</sup>配<sup>くば</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>申<sup>まを</sup>ひ<sup>ひ</sup>尤<sup>もつと</sup>

看<sup>くわん</sup>板<sup>ばん</sup>形<sup>かた</sup>外<sup>がわ</sup>へ<sup>へ</sup>所<sup>ところ</sup>掛<sup>か</sup>け<sup>け</sup>と<sup>と</sup>下<sup>した</sup>へ<sup>へ</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>用<sup>もち</sup>ひ<sup>ひ</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>と

所<sup>ところ</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>と<sup>と</sup>成<sup>な</sup>る<sup>る</sup>所<sup>ところ</sup>方<sup>かた</sup>も<sup>も</sup>所<sup>ところ</sup>新<sup>あらた</sup>へ<sup>へ</sup>も<sup>も</sup>法<sup>はふ</sup>業<sup>ごう</sup>を<sup>を</sup>分<sup>ぶん</sup>か<sup>か</sup>す

掛<sup>か</sup>け<sup>け</sup>へ<sup>へ</sup>は<sup>は</sup>何<sup>なに</sup>も<sup>も</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>合<sup>あ</sup>は<sup>は</sup>出<sup>い</sup>来<sup>き</sup>ず<sup>ず</sup>申<sup>まを</sup>ひ<sup>ひ</sup>自<sup>じ</sup>然<sup>ぜん</sup>又<sup>また</sup>入<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>合<sup>あ</sup>は

も<sup>も</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>に</sup>け<sup>け</sup>方<sup>かた</sup>より<sup>より</sup>お<sup>お</sup>奇<sup>き</sup>ず<sup>ず</sup>申<sup>まを</sup>ひ<sup>ひ</sup>板<sup>ばん</sup>行<sup>ぎやう</sup>分<sup>ぶん</sup>看<sup>くわん</sup>板<sup>ばん</sup>

の<sup>の</sup>依<sup>よ</sup>り<sup>り</sup>完<sup>かん</sup>初<sup>しゆ</sup>より<sup>より</sup>固<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>指<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>所<sup>ところ</sup>出<sup>い</sup>で<sup>で</sup>下<sup>した</sup>へ<sup>へ</sup>移<sup>うつ</sup>る<sup>る</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>に</sup>

諸<sup>しよ</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>早<sup>はや</sup>く<sup>く</sup>固<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>付<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>所<sup>ところ</sup>店<sup>てん</sup>様<sup>やう</sup>に<sup>に</sup>指<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>所<sup>ところ</sup>付<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>も<sup>も</sup>こ<sup>こ</sup>れ

ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>た<sup>た</sup>先<sup>せん</sup>方<sup>ぽう</sup>より<sup>より</sup>お<sup>お</sup>奇<sup>き</sup>ず<sup>ず</sup>申<sup>まを</sup>ひ<sup>ひ</sup>万<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>兼<sup>かね</sup>て<sup>て</sup>能<sup>のう</sup>く<sup>く</sup>の<sup>の</sup>執<sup>しやく</sup>

所<sup>ところ</sup>居<sup>ゐ</sup>り<sup>り</sup>並<sup>なら</sup>び<sup>び</sup>の<sup>の</sup>成<sup>なり</sup>成<sup>なり</sup>と<sup>と</sup>所<sup>ところ</sup>吐<sup>は</sup>き<sup>き</sup>と<sup>と</sup>申<sup>まを</sup>ひ<sup>ひ</sup>勿<sup>な</sup>論<sup>ろん</sup>を<sup>を</sup>為<sup>な</sup>す

固<sup>こ</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>所<sup>ところ</sup>懸<sup>けん</sup>念<sup>ねん</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>方<sup>かた</sup>へ<sup>へ</sup>式<sup>しやく</sup>三<sup>さん</sup>股<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>申<sup>まを</sup>ひ<sup>ひ</sup>も<sup>も</sup>所<sup>ところ</sup>掛<sup>か</sup>け<sup>け</sup>

此遊取へいさめ弘いさめ成なり格かくにい報ほう了りょうすりのの名な併へい代だい銀ぎん

此業引移いさくと中なかつて八柳いさくののとと此こゝもも差さあありり

御ご自じ分ぶんにご病びやうれれあありり方かたにかた括くわ列れつたたももここれれきき此こゝにに

何なにもも余よ其け又またののとと括くわれれれれ放はな先せん方かたのの御ご町ちやう寧ねい成せい

御ご方かたへへ價あらいのの取とりり最さい高こうききもも又また八はち席せきのの最さいにに括くわ系けい

と下したひひもも不ふ若わしし執しやくとと作しやくををししへへ大だいききのの氣き配はい

官くわん爰えい是ぜい飛ひももをを武ぶ服ふくのの御ご括くわ列れつ了りょう成せいるる初しよ年ねん

之こゝにに括くわ列れつ斗とうのの報ほう中ちゆう上じやう交かう乃の去き先せん方かたのの雲うん海かい伏ふく成せい合がふ

聖せい南なんとと爰えいにに列れつるる尚しやう時じ疾しやく括くわ列れつ了りょう成せいるる人ひとのの病びやう

流りゆう行かうよよ此こゝにに括くわ列れつるる十じゆ人にんの内うち又また人ひとのの急きゆう後ご用よう立た殊しよ洒さのの

二に日にち多たいい或ある胸むねののややけけ胸むねののややけけ又また此こゝにに括くわ列れつ了りょう成せいるる

むむるる先せんへへ括くわ列れつ了りょう成せいるる難なん後ご成せいるる用よういい此こゝにに括くわ列れつ了りょう成せいるる即すなはち切きり

御我々方御懐中と成はば急夜我御人ありも

お成且又痰飲の忘業用急と積るるに

車は病壯成るありとていづく胸腹

波り巖岨難儀成べし其首はホルトス小色腹

一夜はお用なる御業酌の中に上下を穿引吐瀉

必急場と成る急夜病者の救はお成はば

此所寫と成る急夜病者の救はお成はば

御弘取の第一御法体にお成中いふ又酒好は方

持業は御用いふ成はば酒も自持と業成る

禮は大病お續せも此体にお成はば酒

何程ともお成る中いふを寐覚の成はば

つらさく頭痛と成る急夜病者の救はお成はば

急夜と成る

痰飲の忘業用急と積るるに

胸腹

ホルトス小色腹

上下を穿引吐瀉

急夜病者の救

急夜病者の救

急夜病者の救

又酒好は方

酒も自持と業成る

酒

寐覚の成

急夜病者の救

あり其のけホルトス五六粒も用と成す

即種酒毒をけ却て健よお成す

中店採へも織の出来ゆつ指上る方各採

方も集會し採杯に酒酌する成酒の前後

用は貝をすくたははの葉と是れ取

す成方も用す方其の方へ功能の差

御味一式粒程づもいさうす成採併中店採

も厚御勘弁と成す元初の内の御は後

御強込と下出るとは弘と成す自然と小色

を服成ハ卦服と注文と成す是又先方

つて御見斗と下を服注文の如く又服

の如十服と多人数の所店へ余分



おのの膏薬と違ひはホルトスの後ハ百病と

治するの速ありを傳授の秘方也ハ妻安は在

是皆能也難と附ハ方病の業におまへうへて

信作落お成り付妻安ハ記の中ハ只あははと

大能也上の喉症と右の病症尚附秘人のおんく

難家とる所て其病を悉く即切に治方先方

こそ一服宛分御座物と成た指てハ迷惑心の筋

もおあり不中お能病者の救もお成りハ却て

此候とてお成り方はおの取ハ列てハ心は並に

了り、急夜弘方の基にお成りハ名併けホルトス

の功能極安品も方もハ世へハ枕の引出ハ扱

入並毎次行なはに或三粒程ぐもハ喃ハ減

下市。勿漏るも入申。業流才とける其つと

春返時、忽ち逢上り引下げ。胸先とほし。喉と

下部。守引腹中の味快く。可く功能お分り。

均と。海と。ア。ア。ア。をけホルトスの功能。遊。遊。

見込。海。海。付。色紙。ホ。不及中。方。子。念。入。外。

業。業。六。格。列。の。お。入。お。は。じ。心。配。付。美。く。海。海。の。

物。と。丸。海。弘。取。の。海。世。話。は。ら。ら。ら。時。は。海。海。何。の

取。給。も。安。少。我。方。乃。将。色。紙。結。去。の。以。外。美。

け。業。虫。の。一。ヶ。条。つ。海。子。と。海。海。を。海。海。海。

換。と。海。海。中。上。の。免。南。の。弘。取。の。海。海。入。方。只。六

海。免。斗。一。つ。と。お。見。へ。中。の。其。海。海。海。海。一。統。

弘。方。お。綱。引。丸。の。免。初。方。建。か。人。む。ん。海。根。看。扱。又。六

下市。勿漏るも入申。業流才とける其つと

春返時、忽ち逢上り引下げ。胸先とほし。喉と

下部。守引腹中の味快く。可く功能お分り。

均と。海と。ア。ア。ア。をけホルトスの功能。遊。遊。

見込。海。海。付。色紙。ホ。不及中。方。子。念。入。外。

業。業。六。格。列。の。お。入。お。は。じ。心。配。付。美。く。海。海。の。

物。と。丸。海。弘。取。の。海。世。話。は。ら。ら。ら。時。は。海。海。何。の

取。給。も。安。少。我。方。乃。将。色。紙。結。去。の。以。外。美。

け。業。虫。の。一。ヶ。条。つ。海。子。と。海。海。を。海。海。海。

換。と。海。海。中。上。の。免。南。の。弘。取。の。海。海。入。方。只。六

海。免。斗。一。つ。と。お。見。へ。中。の。其。海。海。海。海。一。統。

弘。方。お。綱。引。丸。の。免。初。方。建。か。人。む。ん。海。根。看。扱。又。六

片の看板も同じ立換の出入り先ハ

可く弘り注文多分中系り其本店より

弘り方大い又不同仕立勿端看板同立換

御掛下仕の方事丈順ト身入方もお遠

仕立付自然と弘り方も宜敷同様に好成

御の賣業御弘方多分完初より紙看板

掛ヶ看板も子作仕立片面杯の掛並進弘り

上にて新外へ面裁の根看板と致来り放

右月指の指て御食着も御店も仕立

御掛の指て御食着も御店も仕立

茶寮の仕立ハ只一通りの賣業と名付

帰服不仕立方弘方も子遠く依て何れ

先初より目立ひやうと云掛りて中世を小児と云

同の葉或は補ひの煉葉を其の賣葉も用

病ひは百人の内十人無くた人志やき箇飲の病

凡百人の内九十人有く勿論養生して病の治る

すて葉用とる人も其較殊に疾飲の病よ酌中とる

酒急於或は餅あぶらとい物日々含してこの

怯出葉疑取れ病も幾る之を候けホルトス葉

懐中し持葉用ひはた不養生よりた受て疾

箇飲の患やう其病壯健は能ひは概斗方治方で

弘方不及中多く諸人の助もお成は方其葉ハ

有方お成はもげホルトスの功能諸人各お成え

御成えで本店様の女志にせお成は近ハ別段



別掛（まきり）お中元（ちゅうげん）の元（もと）御茶（ごちゃ）の儀（ぎ）初看（はつかん）板（いた）と二本（ふたぽん）送り（おくり）は頼（たの）並（な）び

折（お）り（り）は流（りゅう）と下（した）賣（う）切（き）不（ふ）中（ちゅう）内（ない）遠（えん）方（ほう）別（べつ）て（て）左（さ）中（ちゅう）日（じつ）敷（しき）も

右掛（みぎかけ）り（り）は右（みぎ）方（ほう）の（の）度（ど）上（かみ）流（りゅう）は又（また）中（ちゅう）越（えつ）て（て）左（さ）下（した）賣（う）切（き）人（ひと）に

弁（べん）少（せう）能（のう）中（ちゅう）は左（さ）方（ほう）の（の）為（ため）に却（かえ）て（て）間（ま）がぬけ（ぬけ）病（びょう）氣（き）

左合（さあ）用（よう）して試（し）して（して）あ（あ）ま（ま）人（ひと）も（も）中（ちゅう）と失（し）う（う）ひ（ひ）毛（もう）と

用（よう）ひ（ひ）け（け）は人（ひと）の（の）中（ちゅう）途（と）にお休（やす）み（み）病（びょう）の（の）度（ど）後（ご）はと功（こう）能（のう）の

左（さ）下（した）賣（う）切（き）不（ふ）中（ちゅう）内（ない）遠（えん）方（ほう）別（べつ）て（て）左（さ）中（ちゅう）日（じつ）敷（しき）も

先（ま）り（り）は右（みぎ）方（ほう）の（の）度（ど）上（かみ）流（りゅう）は又（また）中（ちゅう）越（えつ）て（て）左（さ）下（した）賣（う）切（き）人（ひと）に

求（もと）めて（めて）中（ちゅう）は右（みぎ）方（ほう）の（の）度（ど）上（かみ）流（りゅう）は又（また）中（ちゅう）越（えつ）て（て）左（さ）下（した）賣（う）切（き）人（ひと）に

い（い）も（も）大（だい）色（しき）と（と）左（さ）下（した）賣（う）切（き）不（ふ）中（ちゅう）内（ない）遠（えん）方（ほう）別（べつ）て（て）左（さ）中（ちゅう）日（じつ）敷（しき）も

不（ふ）合（が）を（を）任（にん）作（さく）減（げん）と（と）弘（こう）方（ほう）の（の）害（がい）にお（お）め（め）方（ほう）弁（べん）一（いつ）中（ちゅう）日（じつ）敷（しき）も

下（した）は又（また）流（りゅう）は又（また）中（ちゅう）越（えつ）て（て）左（さ）下（した）賣（う）切（き）人（ひと）に







つども今時の人の根氣薄く、長文の能くは這屋

し氣を留て漬たは只あふまき一常葉の中

の能くを嘲ふ人ありあるははる毒お出徳丸

の上、用ひはね格と云て入湯中合て下は度界

と作下しては、初序急はる異くも云ははと作きて下

且又葉の色紙能くを考へて、お尋ひ人もさあ

色紙は、幻にあふ中亦能く出の趣に志くは中

を考て下は、あ又別版は引札を葉、そ人と考へ

不及、清んは垂て下は、

△ 功 能 心 方 の よ

④ 一 け ホルト 又 能く 出 願 して 合 帯 を 以 ち 用 ひ 小 時 八

つづ 凡 病 也 大 小 便 下 り 事 候 左 候

病根びとろんふく極ごくく困こまるまるる病びとろんのの子こをを由よしるる

ががくくひひららががしし初はつめのの男おとこ八はち分ぶんををおお増ぞう一いち度ど十じゅう粒りゅう十

又また六ろく粒りゅうづづもも使し用ようひひてておお止とめめ左ひだり足あし八はち分ぶん大だい使し熱ねつ長ながく

下したりり小せう使しぶぶごごううつつののひひもも決けつ山さんををととりり下したりり丸まる

ここのの症しやうよりより十じゅう粒りゅうをを痛いたみみぬぬたた人ひとははけけくく痛いたむむ丸まる

此こゝでで思おもひひくくははたたはは今いまもも病びとろんのの由よしをを糸いと力ちからおおおおせせるる

故ゆゑよりより又また分ぶんををおお増ぞう使し用ようひひてておお止とめめ丸まる

アア下したりり後ごにに痛いたみみももささうう大だい使しももふふくくはは今いまもも

ささううももささううににままるるおお止とめめ丸まるをを使し用ようひひてておお止とめめ

けけホルホルトトスス初はつめてておお用ようひひぬぬ人ひと大だい使し下したりり丸まる連れんのの下したりり

よよふふおおんん湯ゆ茶ちや用ようおお止とめめ丸まるももああるるけけ減げん室しつのの山さん入い

ろろぐぐくく子ことと室しつにに帰かへりり丸まるをを使し用ようひひてておお止とめめ丸まる

ろろぐぐくく子ことと室しつにに帰かへりり丸まるをを使し用ようひひてておお止とめめ丸まる



病根の深きと毎日に氣短と兼用お止むる治法自然

大抵は病の起る人ありは能く中流して下りて亦

疾積氣留へんの持病あり人惟今何程の良薬て一旦

使すつてはた四季の替り思定又ハ含毒積りて

毒を殺する物あり。是又ハ急毒をさらばれて尚能

を押へぬ。此の後に一度、病毒殺し。或ハ治癒の要

ごとく多し。兼用を後とておめする。大なり。及

べー。ピホルトスと以能去る通者。扱業する。此ハ

病毒を大小便小毒引。持病の要をまねがし。云

病の人と兼べ。滅よ。是迄滅去。治法業。子を

そして治。是。長。短。い。せ。難。病。の。人。ハ。ホ。ル。ト。ス

を。今。使。つ。て。ま。う。り。今。以。持。業。と。お。用。ひ。候。び

善す人眼<sup>かんぞん</sup>ち<sup>ち</sup>の中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>茶<sup>ちや</sup>用<sup>よう</sup>ハ<sup>ハ</sup>独<sup>どく</sup>出<sup>しゅつ</sup>の<sup>の</sup>趣<sup>しゆ</sup>也<sup>や</sup>  
御<sup>ご</sup>もお<sup>お</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>そ<sup>そ</sup>く<sup>く</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>世<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>身<sup>み</sup>も<sup>も</sup>水<sup>みづ</sup>す<sup>す</sup>を<sup>を</sup>下<sup>した</sup>大<sup>だい</sup>丈<sup>ぢやう</sup>ま<sup>ま</sup>  
清<sup>せい</sup>披<sup>ひ</sup>を<sup>を</sup>下<sup>した</sup>交<sup>かう</sup>す<sup>す</sup>

△疾<sup>たん</sup>より<sup>へんじやう</sup>変<sup>へん</sup>病<sup>びやう</sup>の<sup>の</sup>扶<sup>たす</sup>け<sup>け</sup>の<sup>の</sup>方<sup>ほう</sup>

一<sup>一</sup>醫<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>疾<sup>ぢやく</sup>ハ<sup>ハ</sup>徳<sup>とく</sup>病<sup>びやう</sup>の<sup>の</sup>根<sup>こん</sup>元<sup>げん</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>百<sup>ひゃく</sup>病<sup>びやう</sup>後<sup>ご</sup>遺<sup>い</sup>稿<sup>こう</sup>と<sup>と</sup>す<sup>す</sup>  
正<sup>せい</sup>徳<sup>とく</sup>出<sup>しゅつ</sup>ハ<sup>ハ</sup>只<sup>ただ</sup>疾<sup>ぢやく</sup>積<sup>じやく</sup>守<sup>しゆ</sup>而<sup>に</sup>飲<sup>いん</sup>と<sup>と</sup>斗<sup>と</sup>解<sup>かい</sup>く<sup>く</sup>変<sup>へん</sup>病<sup>びやう</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>す

けホルトス才<sup>さい</sup>一<sup>いち</sup>疾<sup>ぢやく</sup>と<sup>と</sup>治<sup>ちやう</sup>し<sup>し</sup>流<sup>りゅう</sup>毒<sup>どく</sup>を<sup>を</sup>友<sup>ゆう</sup>使<sup>し</sup>守<sup>しゆ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>す<sup>す</sup>  
送<sup>そう</sup>上<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>引<sup>いん</sup>下<sup>げ</sup>ケ<sup>ケ</sup>も<sup>も</sup>右<sup>う</sup>症<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>補<sup>ほ</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>妙<sup>めう</sup>業<sup>ごう</sup>也<sup>や</sup>  
妻<sup>さい</sup>女<sup>にょ</sup>を<sup>を</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>ご<sup>ご</sup>も<sup>も</sup>を<sup>を</sup>と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>一<sup>いち</sup>に<sup>に</sup>記<sup>き</sup>す<sup>す</sup>  
けホルトスの<sup>けホルトス</sup>主治<sup>しゆぢ</sup>化<sup>け</sup>業<sup>ごう</sup>の<sup>の</sup>及<sup>およ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>る<sup>る</sup>方<sup>ほう</sup>也<sup>や</sup>

△酒<sup>しゆ</sup>好<sup>こう</sup>人<sup>にん</sup>持<sup>ぢ</sup>茶<sup>ちや</sup>用<sup>よう</sup>也<sup>や</sup>心<sup>しん</sup>の<sup>の</sup>方<sup>ほう</sup>

⑦ けホルトス酒<sup>しゆ</sup>の<sup>の</sup>味<sup>あじ</sup>又<sup>また</sup>ハ<sup>ハ</sup>食<sup>じき</sup>後<sup>ご</sup>二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>粒<sup>りゅう</sup>づ<sup>づ</sup>用<sup>よう</sup>無<sup>む</sup>碍<sup>がい</sup>也<sup>や</sup>

物先をさし後中々気味は二便を通酒するあいせす。

む二日あはる。考又去授勅酒で二席三席ちる事り先。

中一酒毒と消さぬまういんるる。此別る清武家方。

貴人へ進<sup>ま</sup>る<sup>る</sup>酒速感<sup>る</sup>。依<sup>り</sup>修<sup>る</sup>あ<sup>る</sup>。ま<sup>ま</sup>は<sup>る</sup>ホルトス。

二三粒<sup>の</sup>用<sup>を</sup>並<sup>に</sup>飲<sup>む</sup>白<sup>く</sup>上<sup>り</sup>た<sup>ら</sup>せ<sup>し</sup>も<sup>も</sup>障<sup>る</sup>。お<sup>の</sup>成<sup>る</sup>不<sup>中</sup>心。

依<sup>り</sup>酒<sup>を</sup>吞<sup>み</sup>人<sup>の</sup>多<sup>く</sup>年<sup>の</sup>儀<sup>中</sup>持<sup>ち</sup>茶<sup>を</sup>用<sup>て</sup>る<sup>も</sup>如<sup>し</sup>酒<sup>を</sup>進<sup>す</sup>

と不<sup>良</sup>。急<sup>に</sup>夜<sup>中</sup>少<sup>く</sup>人<sup>が</sup>お<sup>お</sup>か<sup>し</sup>る<sup>事</sup>為<sup>す</sup>。此<sup>の</sup>符<sup>を</sup>並<sup>に</sup>下<sup>す</sup>。太<sup>く</sup>お<sup>の</sup>後<sup>に</sup>

出<sup>し</sup>用<sup>ひ</sup>は<sup>る</sup>如<sup>し</sup>指<sup>も</sup>子<sup>を</sup>厚<sup>く</sup>用<sup>風</sup>独<sup>り</sup>り<sup>し</sup>中<sup>に</sup>以<sup>て</sup>輕<sup>中</sup>上<sup>に</sup>交<sup>る</sup>る<sup>事</sup>

一<sup>八</sup>世<sup>上</sup>は<sup>蘭</sup>方<sup>と</sup>稱<sup>し</sup>。行<sup>力</sup>ナ<sup>ク</sup>文<sup>字</sup>の<sup>教</sup>業<sup>を</sup>數<sup>多</sup>に<sup>修</sup>む<sup>事</sup>

こ<sup>の</sup>中<sup>に</sup>ハ<sup>け</sup>ホ<sup>ル</sup>ト<sup>ス</sup>と<sup>偽</sup>し<sup>て</sup>擧<sup>げ</sup>ら<sup>る</sup>事<sup>を</sup>玉<sup>に</sup>採<sup>ら</sup>ハ<sup>る</sup>事<sup>も</sup>

歩<sup>の</sup>族<sup>も</sup>あ<sup>る</sup>。此<sup>の</sup>兼<sup>及</sup>ハ<sup>ル</sup>方<sup>の</sup>製<sup>業</sup>ハ<sup>他</sup>に<sup>勝</sup>れ<sup>ぬ</sup>

と<sup>し</sup>の<sup>事</sup>云<sup>ふ</sup>。尤<sup>も</sup>茶<sup>品</sup>彼<sup>玉</sup>の<sup>名</sup>茶<sup>の</sup>製<sup>法</sup>は<sup>極</sup>く<sup>善</sup>し<sup>き</sup>



て下は。功能也。も。後り。お。成。不。中。は。左。候。互。風。濕。

氣の。あ。う。り。不。中。指。筋。入。り。を。並。て。下。は。出。業。古。く。お。入。合。は。バ。

功能。筋。を。振。お。ん。の。り。を。中。は。受。て。指。筋。中。は。筋。筋。筋。並。不。成。り。

① 家。根。着。板。又。は。建。が。人。ん。出。業。未。も。出。筋。人。ん。中。て。り。

作。越。て。下。は。尤。向。の。又。字。ハ。南。方。法。式。未。も。あ。ハ。ホ。ル。ト。ス。

仕。束。束。中。の。り。外。ハ。中。業。を。但。平。は。勿。論。令。抄。本。と。是。又。

急。夜。目。立。は。指。仕。立。上。が。送。り。申。上。け。既。出。業。を。さ。さ。り。

者。又。弘。り。方。の。出。振。子。折。り。申。上。せ。り。下。又。又。法。方。は。振。

合。も。申。上。者。右。各。を。弘。方。申。上。の。為。に。申。上。者。上。

並。中。の。方。左。將。出。店。法。一。統。振。何。事。申。上。申。上。候。候。不。

馬。と。申。上。の。並。子。厚。出。振。申。上。て。下。は。假。令。者。板。出。掛。不。

い。も。者。俵。の。賣。業。門。指。必。百。出。捨。並。り。て。ハ。何。不。あ。





大阪本店

長堀橋南詰  
大橋喜兵衛



江戸元弘所

尾張町二丁目  
惠比須屋右衛門



奥州元弘所

仙臺二丁目  
伊藤傳三郎



羽州秋田元弘所

大町二丁目  
高堂屋八兵衛



佐渡元弘所

夷下町  
鈴木半五郎



藝州元弘所

廣島中島本町  
吉田屋孫右衛門



肥後傳法所

熊本廣町  
川瀬屋治兵衛



薩州元弘所

麻兒島下六丁目  
千歳屋金藏



土州元弘所

高知新市町  
仁尾清太夫



△看板河勝子。河由けり勢の依ハ堅く河由上ハ  
 寛初より河引合申と並通けルトス河元次々  
 依ハ家柄お擺ひ付き國近もお入ホじ態々  
 孫丹り河粒上陣ハ名前も板木へりりこりて  
 河勝子河由けり勢と下りて其以迷惑を存ハ  
 左去万一母控指支の依も出来河由けり勢と成  
 彼也ハ是犯も無く河状候とて河為下りて  
 河邊より上り河元斗と後左岸河家柄

先るそハ先河粒を去りけり後た板木を去り  
 △引札ハ依ハ河粒敷天々差送り申後此在河配方の  
 河由河と存存付寛初ハ態とせづ指送り候  
 いづも不足仕と存り何卒着々分丈河邊  
 河配垂下不足と然りしと作紙了り河勿端  
 河配方河出情以存り引札の依ハ何程も指送  
 下りて左岸余分お指河配ハ河原申若三百枚  
 目ハお指家毎をりて後お指河配ハ完せりて



卷之四  
飯鳴書院門前  
飯鳴書院

早稲田大学図書館

011488575475